

報道関係各位
Press Release



2026年1月28日
コグニティ株式会社

「ビジネス創造コンテスト2025」ファイナリスト特典として、 Pitch分析とフィードバックワークショップをオンライン実施 最終審査に向け、昨年度受賞者との傾向比較を踏まえ“伸ばすべき論点”を可視化

知識表現AIを用い、会話・文章データから組織課題を可視化するコグニティ株式会社（本社：東京都品川区、代表取締役：河野理愛、以下「コグニティ」）は、「ビジネス創造コンテスト2025」（主催：一般財団法人品川ビジネスクラブ、共催：品川区）のファイナリスト特典として、最終Pitchに向けたPitch分析とそのフィードバックワークショップを2026年1月27日（火）にオンラインで実施しました。

本施策では、ファイナリストのPitch（発話内容）を対象に定量化し、“説明不足の話題・情報の種類”や、「えー」「あのー」といった“伝わり方のクセ”を抽出することで、改善の優先度を明確化。過去受賞者（昨年度の最優秀賞・優秀賞・奨励賞）との比較により、受賞水準に対するギャップを具体的に提示しました。



■ 実施概要

実施日	2026年1月27日（火）
実施形式	オンライン（Zoom）
対象	「ビジネス創造コンテスト2025」ファイナリスト
実施内容	・Pitch分析（レポート提供） ・分析結果フィードバックワークショップ（質疑応答含む）

■ 実施内容：当日提供したPitch分析とフィードバックの中身

1) Pitchを“構造データ”として読み解く 分析レポートを事前提供

コグニティは、会話・文章の情報を独自技術で定量化し、要因抽出から改善の方向性提示、PDCAによる反復改善までを支援しています。

今回のファイナリスト向けには、Pitch（発話内容）を対象に、複数の観点で分析を実施し、改善に使える形でレポートを提供しました（レポート内容はワークショップ内で参照しながら解説）。

2) 「昨年度受賞者」との傾向比較で、 “受賞水準との差”を具体化

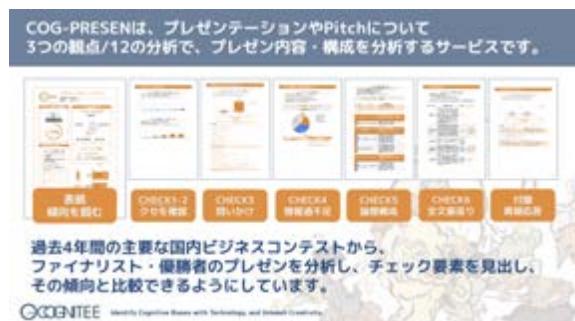
ワークショップでは、昨年度受賞者（最優秀賞・優秀賞・奨励賞）の平均値と、今回ファイナリストの平均値を並べて比較し、どの観点でギャップが生じているかを可視化しました。

例として、情報量（総発話量）では受賞者側が多く、ファイナリスト側は「もっと語るべき論点が残っている可能性」を示唆。加えて、スピード（1分間あたりの文字数）は大きく変わらないにもかかわらず情報量が少ないとから、「早口だから短い」のではなく「内容がまだ詰め切れていない」可能性を示しました。

3) “改善ポイント”を「クセ」「構造」「 伝達手法」単位で分解し、 直し方まで提示

分析は、ピッチの伝達品質を「クセ（例：フィラー、指示語など）」「問い合わせ手法（オープン質問／クローズド質問の偏り）」「構造上の不足（主張・理由・根拠・具体例の置き方）」などの観点で分解し、直すべき箇所を特定しました。

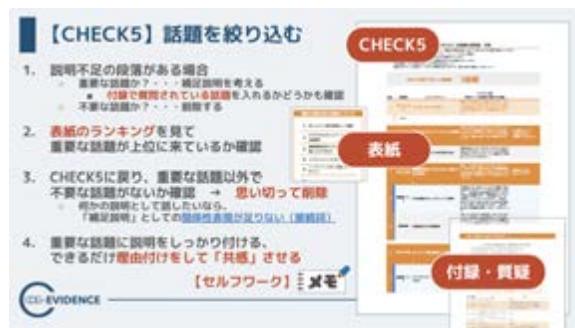
特に「問い合わせ」は、相手を自分ごと化させる強力な手法である一方、設計を誤ると伝わりにくくなるため、長さ・種類・意図の整合を含めた改善方針を示しました。



4) レポートの読み方を“改善実務”に接続 (セルフワーク中心)

当時は、レポートを「読み解いて終わる」にせず、最終Pitchに向けた改善タスクに落とすための使い方を解説しました。当初はブレイクアウト等でのペアワークも想定していましたが、当時は時間の都合により実施できず、セルフワークと全体Q&Aを中心進めました。

セルフワークは各自レポートのCHECK項目を使い、改善対象の段落・追加すべき根拠・削る話題を棚卸しするなど、レポート上の分析表示から具体的な改善に取り組んでもらいました。それにより、各参加者は自身のPitch内話題の優先順位を再考、取捨選択を実行しました。



■ 最終審査に向けた追加支援：最終Pitchも分析し「成長度」「過去受賞者傾向」と比較

「ビジネス創造コンテスト2025」の最終審査は、2026年2月6日（金）15時より大崎ブライトコアホールで開催します。

コグニティは、最終審査での最終Pitchについても同様に分析を行い、今回のフィードバック前後の変化を“成長度”として可視化するほか、過去受賞者との傾向比較（受賞水準に近づいた点／まだ残るギャップ）を提示することで、最終局面の改善精度を高めます。

■ コグニティとビジネス創造コンテストの関わり：第6期・2016年2月 優秀賞受賞

コグニティは、2015年度（最終Pitch：2016年2月）のビジネス創造コンテストにて優秀賞を受賞しており、この受賞は「会社として初めての受賞歴」であり、当時の審査員企業からの出資につながった“原点”的受賞でもあります。

こうした経緯からも、ファイナリストにとって本コンテストが「次の成長機会と資金調達機会へ接続しうる場」であることを踏まえ、最終Pitchに向けた改善をデータで支援しています。

ビジネス創造コンテスト2025：<https://bsc-shinagawa.com/>
主催：一般財団法人品川ビジネスクラブ、共催：品川区

■ トライアルのご案内：Baseline Review機能

コグニティは、会話・文章などの定性データを、独自の構造化技術により「改善に使える指標」と「行動に落ちる示唆」に変換する分析サービスを提供しています。商談・会議・社内共有・研修・顧客対応・IRなど、目的に応じてコミュニケーションの“伝わり方”と“成果につながる要因”を可視化し、改善の優先順位と打ち手を提示します。

その入口として、短期間で現状の課題と改善の方向性を把握できる「Baseline Review（お試し）」を5万円（税別）で1月27日にリリースいたしました。パフォーマンスが良いトーク／悪いトークの違い（構成・論点の置き方・説得の流れ等）や最終版の再レビュー（

Before/After比較)として、録画・音声・書類等を2本ご提出いただき、分析結果とブリーフィング1時間でフィードバックします。



申込ページ：<https://cognitee.com/baseline-review-cog-evidence>

【コグニティ株式会社 会社概要】

- 社名：コグニティ株式会社
- パーサス：技術の力で、思考バイアスなき社会を。
- 事業内容：定性情報の定量化技術を使った組織分析サービス
- 本社：〒140-0015 東京都品川区西大井一丁目1番2-208号
- 設立：2013年3月28日
- Web：<https://cognitee.com/>
- 資本金：6億円（準備金含む）
- 従業員：71名（リモートワーカー含む）
- 代表者：代表取締役 河野 理愛
- 受賞歴他：
 - EY Innovative Startup エンタープライズ部門受賞(2019)
 - 第11回 HRアワード 人材開発・育成部門 最優秀賞(2022)
 - 第22回 一般社団法人日本テレワーク協会 テレワーク推進賞 優秀賞受賞(2022)
 - 第3回TOKYOテレワークアワード 推進賞(2023)
 - 一般社団法人生成AI活用普及協会協議員(2023～)

本件に関するお問合せ
 コグニティ株式会社 広報担当：奥井
 Email: okuinagisa@cognitee.com TEL: 03-4212-8445